

見朝日山公園

2014年度 市民懇談会報告

朝日山公園に隣接して新しく整備されている公園施設がこれからの氷見市にとってどんな場所になるべきかを市民の皆さんとともに考える目的で、平成26年11月から3ヶ月間にわたり、9回の市民懇談会(ワークショップ)を開催してまいりました。実際に現地を歩いて考えたり、朝日山の地形的特徴を古代から続く氷見市の地域史とともに捉え直したり、そしてこれからの氷見市にとって朝日山が更に市民の皆さんに愛され、親しまれる場所となるための方策や運営方法について、参加者の皆さんと共に考えました。9回の市民懇談会にご参加いただいた方はのべ297名、その内市民の中から無作為抽出方式にてご参加を呼びかけた1500名の中からのべ111名の方が参加。9回のWS全てに参加された方が3名いらっしゃいました。

氷見市街の美しい黒瓦の街並み越しに富山湾を望む絶景の地で、氷見の自然と歴史・文化、そして市民の皆さんの健康的な生活を創造する場として、新しい朝日山公園のすがたが構想されました。

「フレンズ・オブ・朝日山」コミュニティから「Community」へ

新しい朝日山公園の未来を検討する、市民に大きく開かれた活動母体として(フレンズ・オブ・朝日山)を構想しました。氷見全体から見た本公園の役割を見据え、公園のより創造的な利活用の可能性を試しながらその整備を進め、市民を主体的な主体としたコミュニティをイメージしていますが、具体的な組織づくりにはさらなる検討を要します。いわゆる「委員会」(Committee)のように、決まったメンバーのみが考えるのではなく、公園の利用者である「市民の輪」(Community)を広げ、専門家や行政と連携し、「使うこと、考えること、作ること」が一体となった公園づくりが理想であると考えます。

朝日山公園整備コミュニティデザイン業務とは

朝日山公園(氷見高校西側の新規造成地7ha)の公園整備・運営方法に関して広く市民の皆様へ情報公開し、検討に参加していただくためのワークショップ(朝日山公園整備・まちの未来検討委員会・市民懇談会)を開催し、構想をまとめていく業務を対象とした公募型プロポーザルが開催されました。氷見の豊かな自然、長い歴史の中での朝日山の存在をあらためて見直し、未来の氷見市民の心のよりどころとなる公園づくりを目指す提案が選出され、9回にわたるワークショップを開催してまいりました。市民の皆様との議論の結果は今後進められる公園整備に活かされていく予定です。

「朝日山公園整備コミュニティデザイン業務」受託者

- 〇 機構 修 (神戸大学大学院工学研究科 准教授)
- 〇 福間 孝則 (神戸大学大学院工学研究科 特命准教授)
- 〇 松田 法子 (京都府立大学大学院生命環境科学研究所 専任講師)
- 〇 株式会社アースハウス建築設計事務所
- 〇 FJ Landscape
- 〇 神戸大学機構研究室 / 京都府立大学松田研究室



起伏に富んだ地形を活かす3つのエリア分け



面積7ha、高低差は約20mという、広くそして起伏に富んだ敷地のよき多様な利活用を目指し「公園を大きく、ビルサイド」(ロングアリーナ)、「ナチュラルアリーナ」の3つのエリアごとに捉え、それぞれのゾーンの役割や特徴、そして整備イメージについて提案しました。

ワークショップ

朝日山公園の敷地の地形や植物を、自分たちの身体と心で体験しながら、未来の公園のレイアウトやアクティビティについて、みんなで話し合いました。

地域史

縄文時代から現代まで積み重ね、培われてきた、氷見の人々の暮らしとその文化と歴史について地形図や古地図、写真などの資料を読み解きながら、再発見し共有しました。

コミュニティ

この新しい朝日山公園が担っていくべき氷見の中の役割や、公園全体の管理・運営の仕組みとための持続的なコミュニティについて、あるいはまずどこから作り始めるか、といったことから公園整備計画など、運営プランニングも含めた公園の将来像について議論を重ねつつ、具体的な公園の利用者やその利活用についてイメージしていきました。

ランドスケープ

専まれた眺望をどう活用するか
富山湾を背景に氷見の街全体を一望できる眺望。「見晴らし抜群」「景色がきれい、ベンチを置きたい」「海と空を背景にステージを組める」「夏はここから花火をみたい」など、眺望の素晴らしいや、その眺望を活かした公園づくりについてのコメントが多数集まりました。

敷地の起伏を活かした公園づくり
「前面が思ったより急」「平坦で使い易い」など、斜面によって緩やかに区切られる敷地全体の構造と各ゾーンの特徴について共有することができました。また3エリアの区分もこの共有を通して呼び上がってきたもので、敷地内の斜面については、「理め立てで平地を増やす」といった意見がある一方、「ウォーキングコースに斜面を活用」「スキューがでる」「斜面を活かした円形劇場をつくる」など、より積極的な活用アイデアも提案されました。

街からのアクセスについて
朝日山の先端に位置する朝日山公園。この公園を街の中心に立ち寄りたいとする場所にするには、街と公園を結ぶ道やアクセスをどう整える必要があるか。各WSでは「道が狭くて危ない」「駐車場が足りない」といった現状の問題点を把握しつつ、「氷見駅からのウォーキングMAPを作る」「道の脇に桜やツツジを植える」「プレスの駐車場を共有できないか」といったさまざまな意見が出ました。

ランドスケープ

公園を形成する道具(概念構成)
① ランドフォーム: 地形 / 造成
TR エリアトラック: 周回路
③ センター: 拠点
⑤ ステージ: テラス / 小広場
⑥ フィールド: 活動広場
⑦ グリーン: 緑地
⑧ アークベラゴ: 花壇
⑨ ツリー: 樹木
AT アトラクター: ベンチ / サイン

公園の整備をどう進めていくか
整備のスタートは、隣に駐車場があり、公園全体を見渡せる「ヒルサイド」から、という意見と、周辺の道が整備されており、そのエリアの活用の方が現場もイメージしやすい(ロングアリーナ)から、という2つの意見に別れました。一方で、一点集中に順々に作っていくのではなく、テンポラリーなステージを設けるなど、その活用可能性をみながら、完成に向かう物語を共有しながら整備を進めていくことが、市民に愛される公園となる上で大切である、という話しにまとまりました。

ランドスケープ

この公園は今後数年間にわたって段階的に整備されていく予定になっています。整備の各段階で少しずつ公開していきながら市民の皆さんと一緒に創り上げていく場として、整備の進め方や公園の育て方について継続的に話し合っていくことが求められています。

Toward The Next Community

氷見の自然環境・歴史・文化に根ざした
“朝日山コミュニティデザイン”を目指して



《自然・文化・健康》3つのコミュニティと公園を考える視点 《ランドスケープ・地域史・コミュニティ》3つのワークショップテーマ

《自然・文化・健康》の3つを公園とコミュニティを考える上でキーとなる視点として、2014年11月から2015年1月までの3ヶ月に渡り、《ランドスケープ・地域史・コミュニティ》の3つをテーマとする9つのワークショップ(市民懇談会 / 以下WS)を、市民のみならずとも開催してきました。

WS 1: 「陣」と「アリーナ」: デザイン提案
日時: 14.11.23 | 日 | 13:00~16:00
場所: 氷見市役所 201号実習対策室
参加者: 58名

“陣”としての朝日山公園
“アリーナ”としての朝日山公園

7~8人ごとに分かれて、「陣」(町との関係)・「アリーナ」(公園の利活用)の2つをテーマにディスカッションを行いました。各テーブルからは「駐車場が小さすぎる」といった意見から、「一面をユリ畑にしよう」といった具体的なアイデアまで、さまざまな声が開かれました。

WS 2: 現場ウォーク「朝日山公園WALK」
日時: 14.11.24 | 月・火 | 10:00~12:00
場所: 朝日山公園敷地内
参加者: 42名

公園を歩いて、場所と景色を体感しながら考える

公園敷地内に立てられた50のポイント(風船)を巡るフィールドワークを行いました。「ここでベンチに座って景色を眺めたい」「起伏が激しいので使いづらい」など、前日のテーブルディスカッションとはまた違った、現地を体験してそのさまざまなイメージやアイデアが出ました。

WS 3: 模型を使って朝日山を眺める
日時: 14.11.24 | 月・火 | 14:00~16:00
場所: 氷見市役所 201号実習対策室
参加者: 31名

模型の街を通じて見えてくる、氷見の過去・現在・未来

朝日山を含む氷見の模型(3m×3m)を囲んで、街の思い出や歴史・文化について語り合いました。同時に行われた「朝日山公園・活動センター」作成WSでは、「焼き芋大会」「夕焼けコンサート」「昆虫取り」など未来の公園の使われ方のイメージをみんなで膨らませました。

WS 4: 朝日山と氷見の地域史
日時: 14.12.20 | 土 | 13:00~16:00
場所: 氷見市役所 201号実習対策室
参加者: 24名

地図と古写真から読み解く、氷見と朝日山の歴史と文化

前半は松田先生(京都府立大専任講師)による地形から氷見を読み解くレクチャー、後半は市民から持ち寄られた氷見の古写真を地図に並べて過去へタイムスリップする「氷見タイムマシンWS」を開催し、氷見の持つ豊かな文化とその歴史をあらためて共有しました。

WS 5: 朝日山の“まちづくり”
日時: 14.12.21 | 日 | 10:00~12:00
場所: 氷見市役所 201号実習対策室
参加者: 18名

朝日山公園へど続く、それぞれの“道”について考える

これまでのWSの中でも話題になっていた町から公園へのアクセスと、公園内の道をテーマに、その問題点やよいあり方について、各テーブルに分かれて議論を深めました。他のWSでは見えてこなかった、1つ1つの道の特色や課題が呼びあがって上がりました。

WS 6: 氷見高校生ラウンドテーブル
日時: 15.1.24 | 日 | 14:00~16:00
場所: 氷見市役所 201号実習対策室
参加者: 50名(市民6名 / 高校生44名)

氷見高校生が考える、“氷見・朝日山・私”のミライ

新しい朝日山公園の敷地と隣接する氷見高校を舞台に開かれた氷見高校生によるラウンドテーブル。「国際関係の仕事につく」「特産物をもっと活かそう!」「氷見高校生が働く、氷見の未来、朝日山の未来、そして自分自身たちの未来について、様々な考えを聞くことができました。

WS 7: 朝日山公園の新しいデザイン
日時: 15.1.24 | 日 | 13:00~16:00
場所: 氷見市役所 201号実習対策室
参加者: 30名

“ヒルサイド”“ロングアリーナ”
“ナチュラルアリーナ”

これまでの市民の方々からの意見・提案をもとに作成した、公園レイアウトイメージと模型を開きながら話し合いを行いました。これまでの積み重ねが具体化されたことでより議論が実践的になり、どこから工事を始めるべきか、あるいは公園の運営、維持・管理の仕組みについてなど、公園の実現に向けた幅広い議論がなされました。

WS 8: 朝日山公園の新しい使いかた
日時: 15.1.25 | 日 | 10:00~12:00
場所: 氷見市役所 201号実習対策室
参加者: 21名

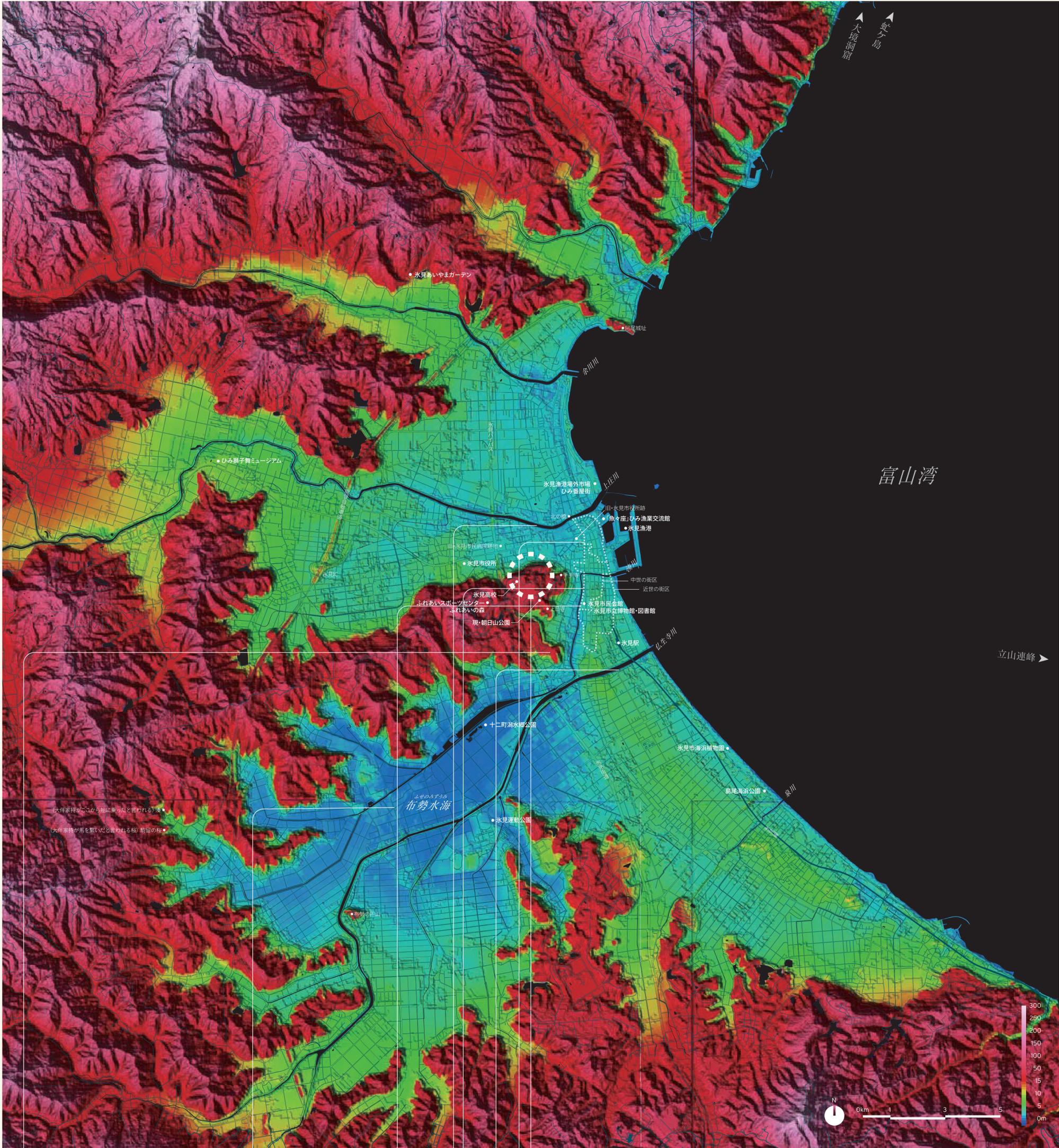
これからどうやって公園をつくっていくか考える

前回に引き続き、公園の整備計画に焦点を当てて話し合いを行いました。3つのエリアのどこから手をつけるべきかといった議論の他、「ベンチラリー」にイベントを開いて市民を巻き込みながら完成を目指す」と、完成までのプロセスをみんなで共有しながらつくっていくべきかという方針が共有されました。

WS 9: 「フレンズ・オブ・朝日山」の提案
日時: 15.1.25 | 日 | 14:00~16:00
場所: 氷見市役所 201号実習対策室
参加者: 24名

朝日山公園の可能性を考える、創造的コミュニティの提案

冒頭で「フレンズ・オブ・朝日山」構想が提案され、これから実際に公園を作り運営していくという思いをみんな改めて共有した上で、組織の表裏に向けて、運営組織の仕組みや具体的な公園でのプログラムについて意見を出し合い、会最後には本コミュニティとしての活動継続宣言を行い、計9回にわたる市民WSは一旦幕を引くこととなりました。



富山湾

立山連峰

氷見のメアアラス
布勢水海

(大伴家持がこゝから船に乗ると言われる) 茨
(大伴家持が馬を繋いだと言われる) 柳 駒留の松

布勢水海 | 奈良時代 ここは内海湖で、奈良時代には大伴家持ら国司らの春・夏の季節における遊覧地としても親しまれ、船で水海の各所を回りながら和歌を詠む、「岬巡り」が楽しまれた。「湖光」「川尻」「古江」といった水にちなんだ地名が今なお残る。

氷見宿市 | 鎌倉後期 氷見の町の中央部を流れる川に大橋が架かり、北側に商業地の市や民家が集まり、南側に運輸業者の宿町が栄えた。また上日寺の発展は南宿の成長と一体のものであったようだ。

上庄川 | 近世 北の橋の下を流れて富山湾に入る流路は町にたびたび水害をもたらしていたが、近世の改修で変更され、その後、河口部が湊となった。

湊川を軸とした町の展開 | 近世 布勢湖が富山湾に注ぐ湊川河口の両側に氷見の町並みが展開し栄えた。川沿いには漁師はもちろん、廻船 主・船宿の人々、そして蔵宿などが歴数を構えた。

十二町湖の排水川建設 | 明治元年 平安時代から江戸時代までの十二町湖の水は、湊川から富山湾に流れていたが、大雨のたびに湊川の氾濫が起こっていたため、明治元年に現在の排水路がつけられた。排水路は海岸沿いの砂丘上の土地を突っ切る形で流れている。

朝日貝塚 | 縄文時代 縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世を通じて人々の営みの拠点であった。また富山湾外を含む海への眺望が特に良好な位置にあり、縄文時代の他の遺跡の眺望域も重ねていくと、富山県の海岸線、平野、富山湾内外のほとんどを見渡せる「眺望ネットワーク」が浮かび上がる。

昭和の大火 | 昭和13年 伊勢町から出火した火は南東の風に煽られ、高砂町・地蔵町・川原町とたちまち燃え広がり、約1,500とが焼け落ちた。湊川の屈折地点に架けられている「復興橋」は焼野原からの再生を期してつけられた。

B.C.5000 A.D.0 500 1000 1500 2015

氷見 朝日山公園

旧石器時代より途切れることなく人々の生活が営まれてきた氷見。そこでは古来からの歴史が積み重なり、氷見独自の文化とコミュニティが培われてきました。市街地の中心に「岬」のごとく海へと突き出る朝日山は、長い歴史の中で常に氷見の街を見守る存在でもありました。富山湾を背景に氷見の街とその歴史と文化を見渡す朝日山で、新しい朝日山公園が生まれます。

